

日本壊滅の危機

日本の指導者は、情報を正確に伝える意志は最初から全く欠落しています。

別に、不思議でもありません。日本がミッドウエーで致命的な敗北をし、情報を隠蔽した当時と本質的に同じです。

結果、日本人同胞の三百万人が命を捧げた。(米兵

の死者は九万八千人)

菅前首相は5日、マスコミのインタビューで、「原発事故情報は東電本社を通して全部くる、伝言ゲームだった」と責任を回避した説明。

「避難地区の設定は、どうやって住民達に伝え、何処に運ぶのかも当然考えた。夜間に一軒一軒、玄関をたたくことはできない。誰がそのことをやるか。そういうことも考えた」国民を幼児扱い(認識)です。

水素爆発後2時間余り政府発表がなかった件では、「東電の報告がなかったんだ。50分後の報告も、水素爆発という報告になっていない。TVでは爆発が写っているが報告がこない。そういうすべてが、事前の想定を超えた形で起きていた」想定を超えたら責任がない、敗戦という想定を超え

たら責任がないという指導者です。

原発の安全神話について、「法律からシユミレーションまで、事故は起きないことになっていく。地震も津波も一緒に起きないことになっていく。だから保安院は機能しなかった。言っていることはほとんど後になって変わっている。メルトダウン

いつでも、見えない時代は、コンサルタント業が繁盛しているようです。しかし一般的に中々思うようには行かないのが現実だと思います。

基本的に経営者の迷い・弱さを反映したのですが、「元氣」にならないのが症状です。現実の行動まで、そして結果が見えてくるまでには、金銭以外

ウンもないとも言っていた」マニフェストも反故にして、本当にこの人はそんなことを言える資格があるのでしょうか。

米国の原子力工学の専門家を首相官邸に入れた問題については、「そういう事実があったかどうかもわからない」と発言。逃げた。

当時、「東日本がつぶれる」と周囲に漏らしたとの報道について、「発言していない。ただシユミレーションとしてあらゆる可能性を調べさせた。100キロ、200キロ、

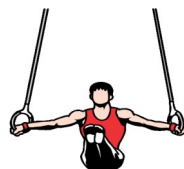
に大変な労力が必要になります。問題は経営者の力です。他力依存で成功した企業はあ

る可能性を調べさせた。100キロ、200キロ、

300キロといったら関東全部はいちやう、つまり日本という国が成り立たなくなる。原発の考えを変えた最大の理由はそこ。100年に1回だってそんなリスクは負えないじゃない」と発言している。

これは朝日新聞からの引用ですが代表する読売マスコミは全く批判や追求をひかえ、権力者の宣伝隊と化し、購読者に対する責任、

マスコミの役割を放棄した、「大本営発表」です。



書です。成功者は、おしなべて読書家です。

世界に対峙しなければ日本は、これからも生きていけません。

地方にいても同じです。一千冊以上を読破、金額にして二百万円余り

を自分に投資するのが一番の近道でしょう。

経営者は日夜、想像を超える研鑽を積み重ねておいてます。最も研鑽で低コストなのは、読



(有)西川経営オフィスサービス
中村会計 事務所便り
2011年9月12日 (月) NO. 227
地域から明るい未来を作ろう